

町のなかの気になる場所に行ってみよう



地図を見てみると、いろんな施設や史跡があって、地域の歴史を調べるのに役立ちそうだね。

この地図に載っている神社が家の近くにあるのだけど、気になる風景があるんだ。見に行ってみようよ。

※全工程を通じ、感染症対策を行っています。



橋があるのに下に水が流れていない…どうことなんだろう？



←1 橋から見える下の様子

1 歴史の謎を探ろう

技能をみかく 2 情報の集め方

① 図書館

自由に探ることができない本(閉架式)があるところもあるので、図書館の司書の方に相談してみよう。

② 博物館・資料館

館内の展示などから、地域の歴史についての情報を集めよう。博物館の方に話を聞いたり、質問したりしよう。お話を伺いたい時には、事前に連絡をして、ご都合や展示内容の確認をしておこう。

③ インターネット

図書館や博物館、市役所などのウェブサイトを見よう。リンクをたどっていろいろなページを参考にしよう。

私たちの身の回りには、歴史の謎がいくつも眠っています。あなたの住んでいる地域にも気になる場所や風景はありませんか。ここに紹介する謎は、ある橋の上から始まります。本来なら川の水が流れているはずなのに、その下には水が流れていないのです。なぜ水が流れていないのでしょうか。

この橋の横には、「四ツ谷用水」という看板がありました。どうやらこの橋の下には、もともと四ツ谷用水という水路があったようです。説明によると、四ツ谷用水は、かつては仙台の市街に消防用水や生活用水を運んでいたとありました。しかし、地図や地形の模型を眺めてみると、仙台市内には、広瀬川という大きな川が流れており、用水をわざわざつくらなくても、生活するための水には困らなそうなのです。それでは、四ツ谷用水は、いつ、誰が、何のためにつくったのでしょうか。いつから橋の下の水はなくなってしまい、今でも四ツ谷用水が通っていたことが分かる場所はほかにあるのでしょうか。そして、四ツ谷用水は今でも使われているのでしょうか。皆さんも写真の生徒たちのように歴史の謎解きを試してみませんか。

橋について解説する看板をみつけたよ。「四ツ谷用水」って書いてあるね。



この「四ツ谷用水」は、今はもうなくなってしまったのかな？

↑2橋の近くにあった看板

1～3の資料を見て、あなたが不思議に感じたことや疑問を書いてみよう。



市内には大きな川が流れていて飲み水には困らなそうなのに、どうして用水をつくる必要があったんだろう？

↑3地形模型での地域調査

課題

① 四ツ谷用水はいつ、何のためにつくられたのだろうか？

② 四ツ谷用水は現在も使われているのだろうか？



- 小学校などで学んだ地域の人物から
- ・あなたの地域にはどんな人物がいたでしょうか？
 - 中世の武士 戦国大名 近世の大名
 - 地域の発展に尽くした人物 地域出身の文化人
 - 地域出身の政治家



- 身近な人の話や言い伝えから
- ・あなたの身近な人から聞いた歴史話がありますか？
 - 地域の重大事件 歴史的事件の記憶
 - 地域の言い伝え 伝統的な工芸品
 - 地域の特産品・民謡・方言 卒業アルバムの変化



- 地域の気になる建物・風景から
- ・あなたの地域に気になるものはありますか？
 - 変わった建物 家のつくりや屋根の形
 - 学校・役場の移り変わり 地域の消防のしくみ
 - 昔の街道・峠・橋・港・鉄道 パス停や店の名前



- 地域の遺跡・遺物から
- ・あなたの地域に気になるものはありますか？
 - 古墳や遺跡 石碑や石像
 - お地蔵さんや庚申塔 城跡や戦場の跡
 - 古い屋敷やまち並み お寺や神社の由来

- a 仙台(青葉)城跡の伊達政宗騎馬像(青葉区)
- b 紙芝居を使って仙台的昔を語り伝える様子(仙台市青葉区まちづくり推進課提供)
- c 瑞鳳殿(青葉区) [(公財)瑞鳳殿提供]
- d 遠見塚古墳(若林区) [仙台市教育委員会提供]
- e 「児童生徒による故郷復興プロジェクト」で仙台市内の小学生・中学生のつくった七夕かざり [仙台市教育センター提供]



- 地域の行事・風習から
- ・あなたの地域にお祭りや風習はありますか？
 - 正月やお盆など年中行事のしきたり
 - 祭り 地域の料理 ごみ処理の方法
 - 家の屋号や家紋 出産・死亡の儀式

博物館や資料館などに行ってみよう



↑ 4 仙台市水道記念館

仙台藩の初代藩主、伊達政宗のころに、城下町での生活のためにつくられはじめたんだね。

図書室などでヒントを探してみよう



市内のどこを流っていたのか、古地図で調べてみよう。



図書室で、参考になりそうな図書を見つけたよ。

2 資料をよく見て ヒントを探そう

技能をみかく 3 野外・聞き取り調査のしかた

野外調査

聞き取り調査

① 出かける前に決めておこう ↓

- ・課題が調べられそうなルートを決め、地図に書き入れる。
- ・質問する相手と聞く内容を決め、質問用紙をつくっておく。

② 持ち物を準備しよう ↓

- ・記録用紙 ・筆記用具 ・カメラ ・地図 など

③ ここに注意して調査をしよう ↓

- ・何が、どこに、どれくらいあったかをメモに記す。
- ・見つけたものを、スケッチや写真で記録する。
- ・観察した地点がどこかを、地図に記入する。
- ・質問用紙に沿ってインタビューする。
- ・自分たちの仮説と聞き取り内容が食い違う点や、はっきりしない点は、整理して、再度、質問する。

④ 教室に戻って結果をまとめよう

疑問が生まれたら、次は、小学校でやったように詳しく調べます。資料から気になることをたくさん出してみても、そのなかからいくつか絞って仮説を立てて調べてみるとよいでしょう。ペアや班で話し合ったりすると、一人では気づかなかった情報を発見したり、それをもとに説得力ある仮説を立てたりすることができます。例えば、四ツ谷用水と仙台の町には、どのような関係があるのでしょうか。立てた仮説をもとに、博物館や資料館の解説などで調べたり、史跡や関連のある場所を訪ねて実物を見てみたりして、その時代の出来事や社会の様子などと情報とを結びつけて謎の答えを推理してみましよう。先生や博物館の学芸員、専門家などにも質問してみませんか。調べていくと、四ツ谷用水は、城下町より低いところを流れている広瀬川の水を城下町に引き込むため、上流で水を取り入れていることが分かりました。そして、もとは生活用水の水路としてつくられたものの、後に下水の水路として利用されるようになったことも分かりました。それでは、四ツ谷用水は今でも私たちの生活に関わりがあるということでしょうか。

詳しい方に質問してみよう

※特別な許可を得て立ち入り・取材しています。



↑↓5 郷六取水口



20世紀になると、四ツ谷用水の本流は暗渠(地下の水路)となり、姿がみえなくなりましたが、今でも工業用水として使われています。

調査の記録を写真や動画で残しておけば、まとめて役に立ちそうですね。

新たな発見をしにいこう



この場所にも四ツ谷用水が流れていたことが分かる史跡があるね。

およそ50年前、撤去されかけていたこの石碑を、当時の小学生たちが市長に手紙を書いて、保存が決まったとあるよ。



→6 道路脇に残された石碑

技能をみがく

4 年表のつくり方・地図のつくり方

年表のつくり方

- ①何の年表をつくるのか、題材とタイトルを決める。
- ↓
- ②どの年代からどの年代までを年表にするのか、時期の長さを決める。
- ↓
- ③年代を書き入れる場所を決める。
- ↓
- ④年代の場所に年代を書き入れ、出来事の場所に、その年に起こった出来事を書き入れる。

地図のつくり方

- ①示したい場所やルート、領域に合わせて、地図の範囲を決める。
- ↓
- ②必要な都市や場所を、地図上に書き入れる。
- ↓
- ③航路などがある場合は、ルートを地図上に書き入れる。
- ↓
- ④領域や国の範囲などを囲んで色を塗る。

やってみよう①

「調査で分かったこと・気になったこと」をもとに、年表の()に出来事を入れよう。

年代	四ツ谷用水に関する出来事	日本の動き
1600年		徳川家康が関ヶ原の戦いで勝利する
01年	伊達政宗が仙台城と城下町の建設を始める	
～江戸時代～		
03年	仙台城下に多くの人々が集まり、人口が増える	江戸幕府ができる
07年	大崎八幡宮が完成する	
27年	()	
35年		
88年	4代藩主細村のころに、四ツ谷用水がほぼ完成する	参勤交代の制度が定まる

調査で分かったこと・気になったこと

- ・四ツ谷用水は、江戸時代の初めに、仙台藩の初代藩主・伊達政宗が命じてつくり、1627年に工事が始まったといわれる。
 - ・仙台藩の城下町は川よりも高い位置に土地があり、城下町へ水を送りにくいので、町から離れた標高の高い土地で水を取り入れ、城下町へ水を送る四ツ谷用水がつくられた。
 - ・明治以降、使われなくなったのはなぜ??
- **仮説** 四ツ谷用水は水道の技術がなかったころに水を町へ運ぶ役割を果たしたため、水道ができたことで、下水道の役割へと変化して今に至っている?

やってみよう②

地図のなかに、四ツ谷用水の本流の経路を赤色で書き入れよう。



今との関わりを考えよう

四ツ谷用水の水路が
タイルで示されているね。

商店街の名前が途中で
変わるの、もともとの水
路によって町が分けられ
ていたからなんだね。



→7 水路の跡を
モチーフにした床

東日本大震災で中学校が避
難所になった時、水道が止
まり、トイレの水も流れる
か心配でした。けれども、
仙台市の下水道は四ツ谷用
水をいかして水が自然に流
れるしくみになっていたた
め、私のいた学校では、プ
ールの水をバケツにくんで流
すことができました。

当時の知恵が、今の私たちの暮ら
しにつながっているんですね。



→8 当時の教頭先生の話

3 謎解きの答えを まとめよう

自分たちが調べ、発見したことを図や表にまとめ、レポートやスライドの形でまとめてみましょう。年表や地図などの資料もつくってみましょう。協力し合って劇やイラストにしたり、新聞やテレビニュースの形でまとめたりすることもできます。

四ツ谷用水は今では生活用水などとしての役割は終わりましたが、工業用水に使われているほか、その水路は今の商店街の境界にもいかされています。また、東日本大震災の時には、四ツ谷用水をもとにしてつくられた下水は使うことができたそうです。時代による四ツ谷用水の役割の変化を、日本の歴史の動きと関わらせて年表をつくと、それぞれの時代の様子や人々の考え方が分かってくるかもしれません。ところで四ツ谷用水がつけられた時代には、まだ今のような水道の技術はありません。それが無い時代に、安全な水を町に届ける役割は、今以上に重要なものであったということも、謎を探った生徒たちの気づきです。

自分たちの考えを表現しよう

まちのなかでみつけた謎

近くの太閤内蔵宮を訪問した時、「太閤橋」とよばれる橋を見た。



・橋が架かっているのに、川が流れていない。
・近くの案内板には、「四ツ谷用水」が流れていると記されている。

→いつか見たいな！

四ツ谷用水の謎と仮説

①四ツ谷用水はいつ、何のために作られたのか？

(仮説)

・太閤内蔵宮は伊達政宗の菩提寺のため、江戸時代のゆかりにちなみ、豊永やルードについて調べ、パソコンを使って、四ツ谷用水に関するサイトを調べた。

②四ツ谷用水は現在どのように使われているのか？

(仮説)

・田舎だからということで、現在は全く使われていない。

調査の方法

①新聞記事や書籍、インターネットを使う(文献調査)

・図書館で四ツ谷用水に関する記事や本を探し、豊永やルードについて調べる。パソコンを使って、四ツ谷用水に関するサイトを調べた。

②博物館や史跡を訪ねる(野外調査)

・仙台市内の、四ツ谷用水に関する史跡を訪ね、また仙台市水産歴史館で、四ツ谷用水に関する展示物を見た。

③地域の人の話を聞く

・仙台市の、四ツ谷用水詳しい人達にインタビューをする。

四ツ谷用水の変遷

時代	役割	変遷
江戸時代	農業用水	仙台藩の領地として、仙台藩の領地として使われていた。
明治時代	農業用水	仙台藩の領地として、仙台藩の領地として使われていた。
大正時代	農業用水	仙台藩の領地として、仙台藩の領地として使われていた。
昭和時代	農業用水	仙台藩の領地として、仙台藩の領地として使われていた。
平成時代	農業用水	仙台藩の領地として、仙台藩の領地として使われていた。
令和時代	農業用水	仙台藩の領地として、仙台藩の領地として使われていた。

人口が増加したこと
で、江戸時代に農業
用水として使われて
いた。

大正時代の四ツ谷用
水は、仙台藩の領地
として使われていた。



発表用スライド



6 跡地を調べてわかったこと

- ・現在の仙台市内にも、かつて四ツ谷用水が流れていたことを教えてくれる場所がたくさんある。
- ・跡地のなかには、今でも使われているものや、地域の人の願いで残された場所がある。

⇒四ツ谷用水は、現在の人々の中にも深く刻まれた史跡だとわかった。

7 分からなかったこと

- ・四ツ谷用水が作られる前、人々はどうやって水を使っていたのか。
- ・排水施設がなかった時代、四ツ谷用水の水はどのように処理されたのか。

今後の課題

- ・他の地域にも、似たしくみのものが江戸時代につくられていたのか。
- ⇒日本の歴史を学習し、他の地域のことも調べて、比較したり、共通点を見つけてみたい。

8 参考資料

- ・仙台・水の文化史研究会編『四ツ谷用水をさがして(まちの安心と安全がここにある！)』、2022年。
- ・大和出版社『四ツ谷用水 光と影 仙台・消えた遺産を遡る』、2018年。

協力いただいた方・施設

- ・仙台・水の文化史研究会
- ・仙台市水道記念館
- ・株式会社みずびまマネジメントみやぎ
- ・仙台市青少年市民センター
- ・仙台市環境局環境共生課

具体的に示す時に使うもの

①年表(「いつ」を示す)

出来事を時代順に紹介するときに使うと、効果的です。いつのことか、どんなことがあったのかなど、項目別に整理しましょう。

②地図(「どこ」を示す)

調べた場所を紹介するとき、効果的です。道や川、目安になる建物などを紹介し、そこまでの道のりなども示しましょう。

③写真・イラスト(「誰」、「何」などを示す)

調べたことの様子を紹介するとき、風景写真を撮るときには、高い所から写すと、いい写真が撮れます。

④関係図・流れ図(「どのように」などを示す)

人物や出来事などの関係を整理して示すときに使います。情報を多く載せすぎると逆に分かりにくくなるので、要点を絞ります。

クラスみんなに発表しよう



四ツ谷用水が仙台の人々の心に強く刻まれたものであったことが分かりました。

質問です。四ツ谷用水が作られる前、人々はどうやって水を使っていたのですか？

今回の調査では分からず、課題として残りました。

質問された「四ツ谷用水が作られる前の、人々の水の使い方」は分からなかったね。



これから歴史を学んでいくと、分かるかもしれないね。

技能をみかく 5 レポートのまとめ方、発表のしかた

レポートのまとめ方

①疑問や謎

何が疑問なのか、なぜ疑問なのか、なぜ調べたかを書こう。

③分かったこと

分かったことを大きな項目・小さな項目に整理しよう。また、証拠となる資料を写真・地図・年表・グラフなどで表そう。

①発表のときに注意すること

- ・よく聞こえる声で話す。
- ・資料は分かりやすく提示する。
- ・分かりやすくするために、説明のしかたを工夫する。

②内容面で注意すること

- ・疑問と結論がつながるようにしているか。
- ・当時の時代背景を踏まえているか。
- ・疑問に沿って5w1h(いつ、どこ、だれ、何、なぜ、どのように)などを具体的に調査しているか。
- ・資料に本やウェブサイトから引用した場合は、出典を示しているか。
- ・反対意見に対する反論を用意しているか。

今回の調査を振り返って

私が四ツ谷用水について調べて驚いたのは、意外と身近なところに、歴史の謎とヒントがたくさんあることでした。江戸時代につくられ城下町の人々の生活を支えた四ツ谷用水は、後の時代になると隠されてしまいましたが、下水の流路の基盤になったことや、今でも工業用水に使われていることなど、今に至るまで私たちの生活に欠かせないものだと分かりました。また、普段からいろいろなものを注意深く見ると、新たな発見があることも分かりました。これからも、歴史の学習を進めるなかで、たくさんの発見をして、歴史の謎を解き明かしてみたいです。

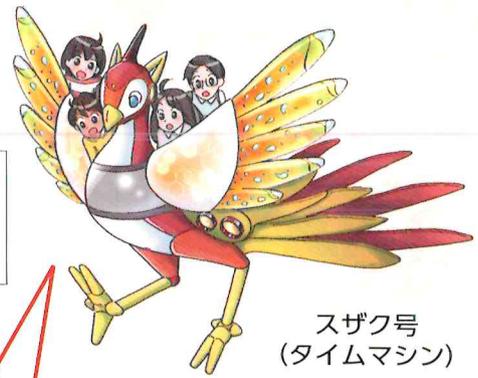
みなさんも、この調査を参考にして、身近な地域の歴史を調べてみましょう。意外なもの、現在の私たちとつながっているかもしれません。

タイムトラベルの学習のしかた

この教科書では、スザク号に乗って時代をさかのぼり、タイムトラベルをしながら、歴史を学習していきます。学習を始める前に、このページでタイムトラベルのための準備を整えよう。



全時代を通して見られる「タイムトラベル巻物」は、ここから確認できます。



スザク号
(タイムマシン)

次の場面を探してみよう！

最初に時代を眺める際に、この作業をやってみましょう。その時代の特色をとらえるきっかけをつかむことができます。

解説

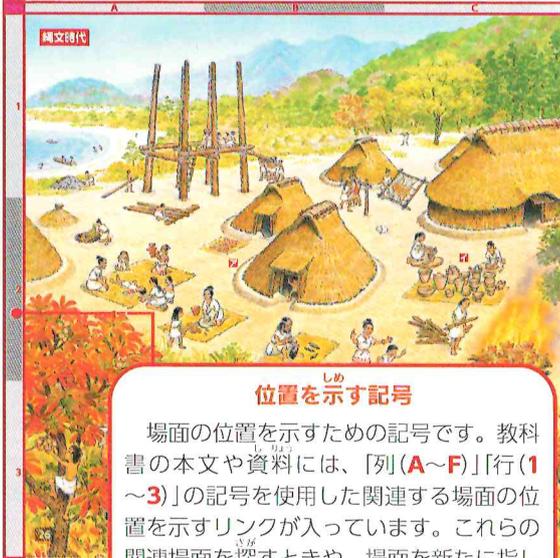
私たちと一緒にタイムトラベルをする時代と、その舞台の解説をしています。

キャラクターのせりふ

現在との共通点や違いに気づくことができます。

① タイムトラベル ② 縄文時代を眺めてみよう (紀元前25～前20世紀ごろのある場面)

- ② 次の場面を探してみよう！ 次の場面は、図-1の図に当たるが、() に記号を入れてみよう。
- ① 穴を掘り、その上に屋根をついた住居に住んでいます。 ()
 - ② 舟を造った船師に、感謝した舟を贈ります。 ()
 - ③ 粟の貯りには、穀と粟がめぐるかれています。 ()
 - ④ 穴を掘って、まじないを行っています。 ()
 - ⑤ 舟を造って、まてまての船文様をつけています。 ()
 - ⑥ 舟を造って、まてまての船文様をつけています。 ()



位置を示す記号

場面の位置を示すための記号です。教科書の本文や資料には、「列(A～F)」「行(1～3)」の記号を使用した関連する場面の位置を示すリンクが入っています。これらの関連場面を探すときや、場面を新たに指し示すときに、活用してみましょう。

③ 弥生時代を眺めてみよう (紀元2～3世紀ごろのある場面)

- ③ 次の場面を探してみよう！ 次の場面は、図-2の図に当たるが、() に記号を入れてみよう。
- ① 舟を造り、その上に屋根をついた住居に住んでいます。 ()
 - ② 舟を造った船師に、感謝した舟を贈ります。 ()
 - ③ 粟の貯りには、穀と粟がめぐるかれています。 ()
 - ④ 穴を掘って、まじないを行っています。 ()
 - ⑤ 舟を造って、まてまての船文様をつけています。 ()
 - ⑥ 舟を造って、まてまての船文様をつけています。 ()



見方・考え方

タイムトラベルした時代の特色を考えるためのポイントを示しています。具体例も参考にしながら、歴史的な見方・考え方を働かせて、時代の特色について考えてみましょう。

手順 1 学習の前に眺めよう

タイムトラベルでは、古代(第2章)の縄文時代から、現代(第7章)の高度経済成長期までの12の時代の様子を紹介しています。

各時代の学習を始める前に、これから学習する時代はどのような時代なのか、最初に眺めてみることで、時代のイメージをふくらませよう。

手順 2 学習をしながら確認しよう

教科書の本文や資料には、その内容と関連するタイムトラベルのページと位置を示す、リンクが入っています。

学習の最中にこのリンクを見つけたときは、リンクの表示を頼りにして、教科書の本文や資料の内容に関連するタイムトラベルの場面を確認しよう。

手順 3 「学習を振り返ろう」でもう一度見直そう

各章の最後に置かれた「学習を振り返ろう」では、タイムトラベルを活用して「章の問い」を考察します。

これまでに学習した内容や「見方・考え方」のポイントを参考にしながら、関連するタイムトラベルの場面をもう一度見直し、時代の特色や今の時代とのつながりについて考えてみよう。